

平成30年度 第2回石狩市社会教育委員会の会議 議事録

日時 平成31年2月21日（木）午後3時00分～午後4時30分
会場 石狩市公民館 視聴覚室
出席者 木村委員長、大橋副委員長、山田委員、二上委員、林委員、納谷委員、木田委員、
大内委員、船木委員、永田委員、高橋委員、松本委員
事務局 東次長、斉藤主査（社会教育主事）、栗谷主査（社会教育主事）、須藤主任、薩来主事
傍聴 なし

1. 委員長あいさつ

【栗谷主査】

これより平成30年度第2回石狩市社会教育委員の会議を開催させていただきます。はじめに木村委員長よりご挨拶をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

【木村委員長】

新しい年になり、初めて集まりますので今年もよろしくお願ひいたします。前回からもう半年以上も経ちましたが、その間には大きな地震もありましたし、その直後に留寿都で全道の社会教育委員研修会も開催されました。私としては前回の社会教育委員の会議で少しだけ提案したことをもう少し進めておいて今日に臨みたかったのですが、必ずしもその間十分な動きが取れませんでした。今日改めて協議したいと思ひます。

現在、石狩市が石狩管内社会教育委員連絡協議会の会長であります。会長になると同時に2つの充て職がありまして、恵庭で開かれたフォーラム石狩の実行委員、もう1つが石狩管内地域いじめ問題等対策連絡協議会という学校教育中心のいじめ問題を解決していくための協議会ですが、社会教育の協力も必要だということで石狩管内の代表として2回参加しました。実はこういう会議は毎年開かれていた訳ですけれども、私は初めて参加してこういう取り組みがあったという事を知る機会になり、改めて社会教育委員の役割、管内・全道組織の役割は社会教育を発展させる上ですごく大事だと感じたところであります。

では、会議次第にしたがいまして、会議を進めたいと思ひます。

まず報告に入ります。平成30年度の石狩管内市町村社会教育委員等研修会兼平成30年度石狩管内社会教育共同事業フォーラム石狩について参加した方から報告をお願いしたいと思ひます。報告については参加していただいた大橋委員からお願ひします。

2. 報告

【大橋委員】

昨年の12月8日、木村委員長そして永田委員と私3人で出席して来ました。フォーラム石狩の内容ですが、石狩管内コミュニティ・スクール推進協議会も兼ねており、コミュニティ・スクールについて効果的な導入と取り組みについて協議されました。実践発表の中で特色あるコミュニティ・スクールの取り組みとして、すでに取り組んでいる江別市と恵庭市から実践の報告がありました。石狩でも次年度開校に向けて進めている厚田小中学校の義務教育学校、石狩小と八幡小の統合石狩

八幡小学校もあわせて開校すると同時にコミュニティ・スクールの取り組みの準備をされておりますので、まだ取り組んでおりませんが浜益小学校、中学校も同じような活動がされておりますので、コミュニティ・スクールについて私達も現状や課題をこれから話し合うことが必要であると感じてきました。

【永田委員】

初めて参加させていただきまして、グループワークにおいて課題がいくつか出され、活発なグループワークがされておりました。私は高齢者専門なのですが、高齢者の方も地域で介護保険に頼らずに地域住民で介護を担うという方向なのですが、小学校、子どもも同じように進んでいることをすごく強く感じてきました。

【木村委員長】

私は平成30年度石狩管内地域いじめ問題等対策連絡協議会について話したいと思います。いじめの問題は確かに社会教育が色んな役割に立つことができると思いますが、実際には私もこういう会議があること自体知らず、普段は殆ど社会教育委員の会議の中でいじめの問題については地域でどういうことが問題になっているのか、どういう取り組みがあるのかなど全くわからず、共有する機会がありませんでした。その中で話すことはできないので、例えば社会教育委員の会議と教育委員会との交流、あるいは学校で今起こっていること、学校で問題になっていることを共有するようにしていなければ、1年に何度か集まって議論してもあまり意味がないのではないかと思います、会議の中でも申し上げました。

社会教育をすることは沢山あって、起こった問題をどう対処するかということが中心なのですが、起こさないようにするにはどうしたらいいかということが、社会教育の大きな役割だと思っていますので、そういうことも話し合える場所が必要なのではないかと思います。

その時に配られた資料がありますが、市教育委員会や市内小中学校、高校でいじめに対してどういうことが取り組まれているのかというようなことを一覧表にしたものです。皆さんには資料を読んでいただき、少なくとも石狩の学校ではいじめはこういう風に問題になっていることを把握していただければと思います。後ほど、教育プランの話し合いで石狩市の教育の中で社会教育は一体どのような役割をしていかなければいけないのかというようなことも当然議論していかなければいけませんので、参考にしていきたいと思っています。フォーラムについての報告は以上です。

次に、平成30年度社会教育事業実施報告について事務局から報告をいただきます。

【斉藤主査】

パワーポイント、別紙資料「平成30年度社会教育事業実施報告」により報告。

【木村委員長】

報告していただきましたが、何か質問はありますか。

(質問なし)

質問ありませんので次の協議に入りたいと思います。3番目の協議で平成31年度社会教育関係

予算案と平成31年度主要な社会教育事業概要案について事務局から報告をいただきます。

3. 協 議

【栗谷主査】

別紙資料「平成31年度社会教育関係予算案」、「平成31年度主要な社会教育事業の概要(案)」により説明。

【木村委員長】

平成31年度の社会教育関係予算案と平成31年度主要な社会教育事業概要案について報告をいただきました。今の説明についてご意見ご質問ございますでしょうか。

【船木委員】

新年度の骨格予算ですが、例年どおり事業は進めるという予定と聞きましたが、特に継続事業について事業を行うことが目的ではなく、その効果を市民に期待しているわけだと思いますが、平成30年度の効果を踏まえ、平成31年度により一層の取り組みを考えている事業があればいくつかお聞かせいただきたいと思います。

【東 次長】

具体的に申し上げますと、情操教育プログラムについて、小学校1年生の子どもたちアートウォームに何日か来ていただいて、音楽朗読劇を体験してもらおうということになるんですが、先生方のアンケートには「非常に効果がある」という声をいただいております。子ども達が体験をしてもらおうということだけではなくて、先生方が国語分野において、実際にこの事業はプロの演劇の方をお願いしているので、朗読の仕方などプロの語り方というものを間近に見ることができるので、そういった意味でもこの事業において、参考にしたいといった意見もいただいておりますので、今後においても継続をし、次年度も新しい子ども達に体験をしてもらおうと考えております。

学校図書館等充実事業では、平成30年度にこれまで学校司書を小学校6校に対して学校司書を配置し、学校の図書館の機能の充実を図ってまいりました。今年は特に中学校に1ヶ月単位で回り、書架の整理など色んな手立てをし、子ども達が図書館に行きたくなるような雰囲気をつくっていただきました。学校としては非常に活動が進んだということもあり、効果があったのではないかと思います。学校としては非常に活動が進んだということもあり、効果があつたのではないかと思います。更に中学校にもう1名増員し、2人体制で中学校については配置をしていきたい、取り組みを進めようと思っております。

最後に「すこやかスポーツ教室」についてですが、年間約30回、大体週1回くらいで1時間程度、体幹を鍛えるような専門家の指導をしていただいております、体力が非常に向上しているのが分かりました。学校の体育の授業でも行なっておりますが、それに加えてプラスアルファすることにより子ども達の効果も表れているので、この事業も29, 30, 31年度と3年間を目途に行なっておりますので、次年度も継続し、その後の展開についてはまた色んなご意見をいただきながら整理をさせていただきたいと思っております。このように教育委員会の関係事業につきましては毎年教育委員会の点検評価というのがありますので、時期を見て委員の皆様に関係する部分をしっかり見ていただき、ご意見いただきながら更に練っていきたくと思っております。以上です。

【永田委員】

継続に関して質問ですが、部活動との関連はどのようなものですか。

【東 課長】

放課後すこやかスポーツ教室につきましては、小学生が対象でありまして、時間的には2時半くらい放課後の時間1時間程度、学校によっては火曜日や水曜日に全員ではなくて手上げをしていただいた方に来ていただくことになっております。従って、塾やスポーツクラブ、スポーツ少年団に入っている方は活動していないと思うんですが、その他のお子さんに来ていただいていると思います。

【山田委員】

学校関係者の委員として、次長から説明があったことに付け加えて学校側としての話を若干させていただきたいと思いますが、先ほどフォーラム石狩の報告でコミュニティ・スクールのお話がありました。これから来年度、再来年度とコミュニティ・スクールが石狩市にも導入されていく中であってそこに繋がっていくまさに社会教育事業だと学校側で押さえています。先程次長からの説明の中で情操教育プログラムがありましたけれども、特に私は中学校から出ている委員ですので「THE MUSIC」というのがありますが、中学1年生を対象としたジャズ音楽、とにかく子ども達にとっては経験をするのがない主体的にはまず経験することがないであろうそういう場に子ども達が触れる、出会うという機会が社会教育事業の中で出会うことにより、ただジャズを聴くだけではない、例えばマナーであったり、ジャズって何？という学びであったり、単にジャズを聴くだけではない付加価値がそこに教育の場としてあるというような学校教育側においては効果を発揮されています。この920,200円ですけれども、そのような価値を我々として教示させていただいております。また、図書館司書のお話もありましたが、そもそもコミュニティ・スクールというのは学校教育だけで子ども達を育てるには限界があるので、地域の専門的な人をいかに学校教育に取り入れて子ども達を育てていくか、それが根底にコミュニティ・スクールにはあります。学校図書館司書においては、司書は一応学校にも配置はありますけれども、教科の教員と兼務していますので、配置していただくことによって、学校図書館の子どもへの貸し出し図書の整理、修理も含めて学校司書の教諭と連携して図書の充実が進む。もちろんかなりの額の図書購入費も措置していただいておりますので、子ども達に必要な学習資料館という役割も学校図書館にはあるものですから、教科に必要な図書の購入にあたって、専門的な観点から助言いただいているなど、かなりの部分予算以上に学校教育への効果を我々としてはいただいていると思っております。

【林 委員】

いしかり市民カレッジ側から参加しておりますが、補足説明として、概要案の2ページに記載しておりますが、いしかり市民カレッジにある主催講座重要講座24コマという予定の数字が入っていますが、私達の講座は2つの大きなジャンルに分かれており、1つは主催講座、もう1つはまちな先生企画講座となっています。資料の中には、まちな先生講座の講座数が入っておりません。それが加わりますと14講座ではなく、全開講講座18講座、講義数は全部で40講義となります。我々の中では講義数をコマと言ったりしますが、18講座40講義を予定しており、これは実際の来年度の予定ですので、ご理解いただければありがたいと思います。

【船木委員】

先程、斉藤主査のスライドの中に成人式の写真がありましたが、石狩市として生涯学習、社会教育を推進する立場として、その成年達がどのようになって欲しいか、つまり子ども達の事業をいくつか行なっていますが、その子ども達がこんな成人になって、全国各地に石狩市から旅立つ、もしくは修行して大人になって石狩市に戻る、そこのところを目指して、今子ども達のため取り組んでいることをお聞かせください。

【斉藤主査】

情操教育プログラムのおしゃべランドは心豊かな子ども達のために事業を展開しておりますが、大きくなった子ども達に聞いても、この事業のことを覚えていてくれる子ども達もいますので、いい影響を与えられているのかと思います。

【東 次長】

総合計画の中で「石狩プライド」ということを使っております。石狩に誇りを持つということ、皆さんの気持ちの中に持っていただきたいということ、ふるさと教育ということが非常に肝心なことだと思っております。もう一つは地域の人にいかに関わってもらえるのかということが大切なことであって、一例を挙げるのが学校支援地域本部という事業で多くの方が学校のサポーターとして活躍いただき直接子ども達と関わっていく、地域の中で関わりあって挨拶をしたりしていくことが地域に溶け込み、地域の中で生活をしていくということになると思います。石狩の事をしっかり知るといふことと地域に大きく関わるということ、そして大人が子どものことを大切に思っている地域だということ子どもが受け止めてくれることが、THE MUSICなど色んなことをしてくれるという地域なんだというようなことがあれば、何らかのかたちで石狩に戻ってきてくれるのではないかと期待しているところではあります。

【林 委員】

私がいしかり市民カレッジに入ったときには30名ぐらいのスタッフがおりましたが、現在は20名切っております。活動している内容は以前と変わりませんが、より効率よい組織運営を模索しながら活動しております。会議などでの議論も極力、的を絞った論議がなされるよう配慮しながら現状の活動内容の維持に努めております。

この3年間に新しいスタッフが3名入会しましたが、今後の活動を維持発展するためには、やはりスタッフの確保が大きな課題です。現状では講座受講者の減少という問題はありませんが、「持続可能な組織づくり」のために組織内プロジェクトを組み、スタッフの確保問題、講座提供在り方、広報活動在り方等々、活動全般に亘って検討を続けております。これらについてその問題点の提起に基づき実行可能なものから実行に移しつつ、それらの問題解決に取り組んでいる所です。

いずれにしても、市民に学習・教育の機会を提供することが我々の使命ですから、そのより良い方法を今後も模索して行きたいと考えます。

【納谷委員】

小さなボランティアグループを作り、会館を借りてこどもサロンを運営しています。近所のおばさん、地区のおじさんとして顔見知りも多く安心して通える居場所になっていると思います。

スタッフは昼食を作り、午前中の宿題や自習を終えた子どもたちと一緒に食べます。その後は遊びの時間です。最初はなれない子たちも、気持ちが解けていくと心の中の不満をポロっと吐き出したりします。また思うことはスタッフのことです。近所の高齢者の方が多いのですが関わってくれています。一人暮らしの女性の方は「一人の食事は寂しいよ、ここで子どもたちと食べるのが楽しい」と言います。

私たちも夢を見られるんです。子どもたちが成人してどんな大人になるのか、とても楽しみです。子どもたちと遊び、いろんな事を話して、それも一つの社会活動で「良かったなあ、始めてよかったなあ」といつも思います。

こういった何気ない参加の仕方も、「石狩プライド」の気づきと感じますし、ここでいろんな話をいただくことも、とてもありがたいと思っております。

【木村委員長】

お二人の意見は来年度の社会教育委員の会で何をするのかこれから提案したいことと関わってきますので、このことも含めて後から少し議論したいと思います。他にございませんか。

(意見なし)

【木村委員長】

平成31年度社会教育予算案、主要な社会教育事業概要案の議論はここで終わらせていただきます。

【木村委員長】

それでは引き続き平成31年度社会教育委員の取り組みについて私から説明させていただきます。別紙資料にありますが「いしかりシニアの生涯学習ガイドブック2020年版(仮称)」の作成についてですが、その前に去年から今年にかけて実施した浜益区調査についての報告会の実施については、浜益との話し合いを踏まえ、改めて発表の機会をつくりたいと思っております。

さて、石狩市の子育て支援のガイドブックは全道的にも誇れるような立派なものを市民と行政が一緒になってつくっており、そのことを踏まえて、石狩で高齢者のために豊かな老後を過ごすためどうすることができるのか、特に生涯学習の機会や社会参加の機会が市内ではどのようなものがあるのかということを紹介するようなガイドブックをつくったらどうだろうかという提案です。

先程の議論がありましたように、市民活動が今抱えている問題は、メンバー全体が高齢化しているということが出ました。なかなか新しい人が入ってこない原因の一つは、定年退職後、地域の活動などすぐに出来るとはなかなかならないので、皆さん70歳ぐらいまでは働いていて、とても時間が取れないというのが一つですし、また、お年寄りの意識が変ってきているんじゃないかと思えます。例えばボランティア活動の動機などを調査した際、60歳代の方のボランティアを始める動機と20代30代の方のボランティアを始める動機は違っており、若い人たちは自分自身のためにボランティア活動を行うということ。例えば、ボランティアを通じて色んな知識を得るということですが、高齢者の場合は今まで取り組んできたことを通じて“世のため人のために役に立ちたい”ということや“自分自身が楽しみたい”など充実した老後を過ごしたいというところにあるそうです。ですので、義務感だとか社会のためになるんだというような動機付けだと、なかなか参加して

もらいにくく、“この活動は楽しい！”という働きかけが必要であり、石狩にはみんなが楽しく取り組み、社会的にも意味のある色々な機会がいっぱいあるんだということを知ってもらうためには、石狩市内の中でどのようなものがあるのかという事を社会教育委員自身が調べて知るということも大事なことと思っています。石狩市における高齢化、人口減少に伴い、現に高齢者が生涯学習活動を始め、地域においてどのような役割を果たし、また高齢者の暮らしを支える仕組みはどのようになっているのか社会教育委員として知るということで、石狩市は高度成長期に開発された団地で最初に入居された人たちが一挙に高齢化しているので、都市の市街地でありながら、高齢化が進んでいる地域があると、コミュニティの問題が生じ、社会教育としても非常に問題になると思いますし、一方で厚田や浜益などの漁業地域などは過疎化を伴いながら高齢化が進んでいるようです。そういった人たちの生活の問題も大事だし、あるいは産業の担い手の問題も大事であり、希望もある反面、人手不足という問題もあり、浜益区の調査のときにも、日本海側の漁業といふとにかく働く人手が足りないということでした。2番目は石狩市の地域づくりや社会教育の誇るべき点は市民の自主的活動を行政が支援するという協働の活動を中心に発展してきたが、シニアの方達にもそのような活動に積極的に関わってもらいたい。高齢者は地域にかけがえのない存在として様々な支援を受けるだけでなく、地域づくりの担い手として元気でいてもらいたい。そのためにもどのような活動の場、居場所があるか紹介することです。保健福祉のガイドブックは今まで福祉行政で出てきたという経過があり、例えば福祉の支援を受けられるガイドブックはあると思いますが、元気なうちはご自身も社会参加しながらやっていくことが生きがいになり、健康にも繋がっていくという考え方のガイドブックをつくれればいいのではないかと思います。石狩市の人口構成の特徴は、札幌市内で働いてそれまでは定時市民であり、定年退職して少しゆとりが出来、せっかく石狩に住んでいるので石狩の自然環境に親しんだり、歴史も知りたいというのがいしかり市民カレッジの今までの発展にも繋がっていると思いますが、その人たちが地域デビューをする際、どんなことが自分は出来るのかという情報を得るためのもの。3番目は社会教育委員がこれらのことを自ら調査し、ヒアリングを行うことは社会教育委員自身の学びであり、石狩市の生涯学習、社会教育の活性化に繋がると同時に多くの市民と出会うことで社会教育を発展させ、まちづくりを進めるためのネットワークづくりに繋がる。以上のことを踏まえてシニアに様々な社会参加の情報を伝えると同時に、石狩市にはシニアの豊かな暮らしを支えるどのような仕組みがあるかも知ることが出来るガイドブックとする。それは単なる情報提供にとどまらず、様々な取り組みに関わる市民ひとりひとりをしてできるだけ多く実名で紹介するようなガイドブックはどうか。写真入りで紹介するようなもの。今は観光が大事ですが、これからの観光はそこに住む人に会いに来ること。住んでいる人の取り組みの想いを含め紹介するようなガイドブックにしたらいのではないかと。今このような取り組みが出来ると全国的にみてもとても画期的なものなので、できれば社会教育委員が取り組んだというプロセスも含め出版するというようなことも目指しながら取り組んだらどうでしょうか。

したがってガイドブックの構成案としては、仕事編とシニアサービス編は事務局に協力いただき、他の部局でつくられているものを紹介するかたちがいいと思いますが、社会参加編の中には生涯学習の取り組みと市民活動の取り組みと居場所づくりとして、まず生涯学習編ではどんな学習機会があるのか。例えば老人大学や老人クラブ、石狩市でははまなす学園があると思います。老人クラブ、いしかり市民カレッジ、公民館、図書館、博物館、厚田区や浜益区の取り組みは、特別に取り上げたらいいと思いますが、活動のキーパーソン、中心となる方々にシニアの人たちはどんな学

習の機会になっているのか、それぞれの中心になっている人はどんな想いで取り組んでいるのかいうことを社会教育委員の間で分担してヒアリングをし、それを報告・処理する。社会教育委員の中で少なくとも1つ、私はこういう活動、こういう人にとってヒアリングしたいというように提案していただければありがたい。これだけではなく市民活動編もあり、どんなボランティア活動を求められているのか。例えばいしかり市民カレッジのように単なる受講する方ではなく、運営する側も両方いらっしゃるかと思います。どんな講座を提供しているのか、それを成り立たせるためにどう関わっているのか、その立場で例えば社会教育施設にどんなボランティア活動があるのか、学校は学校支援、コミュニティ・スクールなど特にこれから学校ボランティアを求められてくるので、社会福祉協議会、福祉施設、自然環境の保護、観光、郷土史ガイドなどいろいろあるので、紹介する活動やインタビューする方々など提案も含めてご意見をいただければと思います。

もう一つは居場所編。どんな居場所があるか、そこではどんな活動をしているのか。札幌市では、町内会と民生委員協議会と社会福祉協議会が中心となり、札幌市に87箇所のまちづくりセンターがあり、そこを居場所にするための施策があるんですが、87箇所あるまちづくりセンターを高齢者や子育て中の母親、引きこもりの青年など、悩んだときに気軽にいき、そこへ行くと誰かお話し相手になってくれる人がいるという施策を進めているわけですが、上手くいかない。なぜ上手くいかないかというのは、大体運営に関わっているのは町内会や民生委員、社会福祉協議会の役員であり、皆さんものすごく忙しいわけです。なかなか交代できず、役割も持っているので居場所にいる時間が少ない。居場所へは、悩んだ人がようやく決心をして行くものなので、行った時に開いていなければ意味がない。取組自体を知ってもらうため、講座や実施やヒアリングなどの取り組みをして、そのことをA4半分ぐらいの大きさに、1人1ページか2ページ見開きぐらいにまとめて作り、それを生涯学習編、市民活動編、居場所編それぞれではなく、全体で少なくともお1人1つ、賛成が得れば皆さんに1つずつ引き受けていただいて、最後は編集作業をどのように進めるかはもう少し考えたいと思います。進め方ですが、今年は石狩市の教育プランがちょうど折り返しの年なので、10年計画で5年前には社会教育委員の会議の中に3つの分科会をつくり、検討して教育プランの提案書を出し、それを教育プランに反映していただいたという経緯がありまして、来年度、新たな教育プランへの提案書をつくる予定です。ですので、この取り組みが同時に教育プランへの検討にも繋がるような取り組みにしたらどうかというのが私の提案で、平成26年度の提案書の場合は、第1分科会、第2分科会、第3分科会に分け、地域の高齢化と高齢者の取り組みとしてこれは居場所づくりにも繋がるわけなんですけれども、このガイドブックづくりでヒアリングをし、地域の取り組みの現状と課題を知る。そのことを提案書にも繋がるように別々の作業としてではなく、それが上手く重なるような取り組みをしたらどうでしょうか。事務局から説明していただきたいと思いますが、提案書というのは大体10月ぐらいまでということでしょうか。

【東 次長】

そういうことになると思います。現在のプランが平成27年度から31年度までとなっており、31年度が最終年度ということになります。32年度以降も新しいプランが10年間だと思います。

1つは、前回どのような成果を挙げられたか、どういう課題があったのかしっかりとまず皆さんにお示しをすること、また、できたところと足りなかったところの議論をすること。それは切り口にも十分反映されることだと思いますので、その情報はしっかりと皆さんにお話をさせていただきたいと思います。12月、まだはっきりとした数字ではないんですが、今までの例でいくと

12月くらいにはプランそのものが成案というかたちになるはずですが、3月くらいに最終的に提案しますが、パブリックコメントや色んな説明をするということになり、年内の12月前には渡すということになると10月前にはこちらの社会教育委員の皆さんの意見を形にさせていただくことが一番具合としてはよろしいのではないかと思います。時間としてはそんなにあるわけではありません。

【木村委員長】

これは私からのお願いですが、社会教育委員の会議自体は年3回ですが、今年度は6月と2月でしたが、できれば秋に一度開催するというので、各々誰にヒアリングをするかということをお願いを出していただき、1人最低1箇所ヒアリングをし、その後、近い分野の方でグループをつくっていただいて、会議についてはどう持つか検討したい。また、ヒアリングの日程等が決まりましたら、私としては可能な限り一緒に行きたいと思っておりますけれど、それを踏まえて事務局と一緒にグルーピングやみんなが集まり発表し合うような場所をいつ設定するかを改めて提案させていただくというように進めていきたいと思っておりますがいかがでしょうか。

【船木委員】

話が具体的になってきたので、基本的に第三者で是非やりたい立場で1つ提案という発言させていただきたいんですが、いくつか委員長からシニアの世代に起こっている生き方の問題や定年退職後の問題など生涯学習の活動に後継者が育たないという問題ですが、人の繋がり方の形態の問題だと思います。構成員の意識の問題なのでそこがすべての糸口。それを踏まえた上で現在私の専門がキャリア教育、人間関係トレーニングなんですが、ライフキャリアの問題だと思います。何を言いたいかというと部分部分の活動ではなく、どういう生き方をしていくのかという人生設計。それが仕事100%できた人がそれが0%になったなど、人間の役割の問題ではないか。人間の役割というのは先行研究で9つあり、親からすればいくつになっても子どもは子どもという役割があったり、地域から見れば市民という役割でビジネスでいえば報酬をもらう労働があつて、報酬をもらわない労働というのがボランティア活動や町内会活動があります。これはキャリア教育専門の部分なんですが、まず私が第一に協力できるという事は人生設計を考え直す基本情報を提供させていただけるかなと思います。9つの役割をどう考えるかということシニアの人たちが新たな人生設計の中で何をやるか。ライフキャリアをどうしますかという入り口があると入りやすいのではないかなと思います。その気になるような仕掛けなど色々な動機があるかなと思いますので、何かきっかけをつくれば良いかなと思います。また、組織とかコミュニティとか内側に閉じてしまうと外側から参加できないかなと思います。今起きている問題は、内向きになっているので人の繋がり方のかたちを見ると外に開いているグループには外から声をかけやすく、内側向きだと外は排除する動きがあつて固まってしまう。キャリア教育の集まりは自分の人生、仕事だけではないということに気がついてもらい、家族をもっと大事にしようという方がいれば、石狩にはこんなところがあるということになるかなと思います。

【永田委員】

確認しますが、現在市内でどういうものがあるかということをもっと洗い出してみるということでしょうか。

【木村委員長】

私はあくまでもガイドブックづくりを元にして、石狩市の中でどんな活動があり、そこで関わる人たちはどのような想いで活動しているのかを把握するため社会教育委員として参加してもらいたいのと、今抱えている問題をみんなと一緒に解決したいという想いがあります。また、そのガイドブックにより組織や活動を紹介だけではなく、一人一人の想いが伝わってくるようなガイドブックをつくったらいかがかというのが私の提案です。

【船木委員】

分析ではなく、極端に言えば“誰かの生き方がここにある”ようなものにしてはどうかということです。

【木村委員長】

ヒアリングで色んな方々に会って話を聞き、それを石狩市民に紹介するということが中心かと考えます。

【二上委員】

改めて確認しますが、今回のような活動も石狩市の社会教育委員の役割としてあるのでしょうか。

【木村委員長】

すべての市町村の社会教育委員が行っているわけではありませんが、社会教育委員の役割の一つとして社会教育調査をするということがありますので、社会教育の行政を進める上で必要なことを調べるということも社会教育委員の大事な役割かと思えます。

【納谷委員】

質問があります。市民活動編は沢山並んでますが、「社会福祉協議会」であれば社会福祉協議会に来る方々に聞くということでしょうか。

【木村委員長】

例えば、社会福祉協議会で高齢者のためにどんな取り組みをしているかということです。

【納谷委員】

居場所は沢山ありますが、それを色々聞いてということでしょうか。

【木村委員長】

居場所は色んな団体や市民活動として行政も行っているところもありますが、札幌市であれば生活クラブ系のNPO法人、また児童会館を運営する財団など色んなところが居場所づくりを行っています。あるいは社会福祉法人のデイサービスセンターなども行っているんですが、地域の人が周りであることを全然知らない。石狩の中でも様々な取り組みが沢山あるはずですよ。

【永田委員】

石狩市では福祉は結構充実しているようで、社会福祉協議会では自分が住む地域でも様々な居場

所がたくさんあります。結局それが横のつながりがないためにあんまり真に迫っていない。学校の取り組みなども結構行っているのに知っているのは一部。行き渡っていないと思うんです。

【木村委員長】

活動に皆さんが参加する。サービスの受け手だけではなく、サービスをつくり出すような仕事もこれから石狩市の高齢者にとって大事な役割なのではないでしょうか。

【永田委員】

情報が沢山あればどこに参加するかということをお皆さん自分で選ばれると思います。ですので行政との関わりもそうなのかなと思います。

【木村委員長】

お年寄りのことを考えると紙で出すほうがいいと思いますが、ネットの方が安上がりということもあるので、そのところも使えるかどうかも含めて検討します。

【高橋委員】

この原案賛成です。社会福祉協議会でも居場所マップというものが出来て、ダブる部分もだいぶあると思いますが、居場所マップの方には市民カレッジのようなものは入っていないんです。ですので今回のものはもっと幅広かったり狭かったり色々あっていいんじゃないかと思います。例えばカラオケ屋さんやお化粧して喜ぶようなものなど、どの程度まで入っていいのか。

【木村委員長】

ヒアリングで全部カバーするというのはとても無理なので、ヒアリングは社会教育委員1人が1つ、2つ、多くても3つ程行っていただいて、それ以上の情報は一覧表のようなかたちで載せるようなイメージでどうでしょうか。

【高橋委員】

集めてきた情報の中で、掲載の有無を考えればいいと思います。

【木村委員長】

高齢者のためのお化粧やスポーツだと「ふまねっと」など色々な取り組みがあり、全部ヒアリングするのは難しいので、石狩市民にとって知っておいて欲しいものだと思います。

【高橋委員】

まずは取り組み、抜けているところがあっても追加していくようなかたちでいいかと思います。

【木村委員長】

そのような作り方もあるかもしれません。我々がまず最初に始めますが、市民の皆さんの協力でそれがどんどん膨れ上がっていくというようなこともあっていいんじゃないかと思います。

【永田委員】

ここで挙げた項目の中に学校や社会教育施設などもあると思うんですが、このまま載せるとういうことでしょうか。

【木村委員長】

具体的に高齢者の人たちがもっと参加してもらえるような活動などを思い浮かぶものも挙げていただき、今年度中には決めたいと思います。事務局の方にヒアリングする場所が決まりましたら連絡していただければ、私の方でも整理をさせていただきたいと思います。

【高橋委員】

高齢者クラブということでもいいんでしょうか。

【木村委員長】

結構です。

【永田委員】

今高齢者の日常生活支援でどの自治体も協議体というのをつくることになっております。それは高齢者の支援に関わることでできそうな団体や個人、基本的には町内会、民生委員、老人クラブ、NPO法人など厚労省が想定しているものがあります。協議体をつくることと生活支援コーディネーターを置くこととなっており、生活支援コーディネーターは、例えばボランティアをする人たちを養成する役割があります。事務局の方ご存知でしょうか。石狩市の生活支援コーディネーターは社会福祉協議会で行ってますか。

【斉藤主査】

承知しております。

【永田委員】

ということは社会福祉協議会のその協議体の方々にまずお聞きすると様々な情報が聞けるのではないかと。

【木村委員長】

そうですね。永田さんは専門なので、例えば社会福祉協議会を担当していただければ。また、行政が持っているデータは事務局にお願いし、私と事務局で整理をする。聞いたところによると福祉行政ではそういうマップやガイドブックづくりをすでに考えているようなので、活用できるところは活用できればいいと思います。

【納谷委員】

小さな個人の団体などはだめでしょうか。

【木村委員長】

全然かまいません。それは社会教育委員としては大事なことで、市民が小さなグループでも自分達で一生懸命学習しながら活動しています。むしろそういう方々を見つけ出して、その想いを皆さんに伝えてくれるようなそういうガイドブックもいいかと思います。

【高橋委員】

公民館を使って活動している団体や登録している団体なども対象となるのでしょうか。

【木村委員長】

例えば手打ちそば同好会がありますが、そば打ちは自分達が楽しむだけではなく、それを生かして地域貢献をしようというようなことを目的にもしているので、たぶん北海道の中でも活発なグループの1つだと思いますので、紹介したりするといいのではないかと思います。公民館を使用しているサークルの中にも他にあると思います。

【高橋委員】

歌声活動やっています。

【木村委員長】

歌声活動もいいと思います。そのサークルが高齢者に対してどう考えているのか。もっと参加してもらいたい、あるいはリーダーの担い手がなく困ってるなど、色んなことをそこに行って聞いてくることが石狩市の社会教育をこれからどうしていけばいいのかを考える上でも大事な情報収集だと思います。

【永田委員】

大事だと思います。例えばサークル写真などを入れると楽しいと思います。

【大橋委員】

本町地区を中心に活動している「石狩ガイドボランティア」方から、新会員加入のための講座等を開いているが、なかなか会員の増加につながらないとの話を聞いています。

このたびの「ガイドブック」があれば、ガイドボランティアに興味関心のある方々に広くPRできると思います。是非取り組んでみたいです。

【木村委員長】

編集作業が大変になる可能性はあると思いますが、できれば社会教育委員の皆さんが最低1箇所一人ひとりに話を聞きに行ってください、聞き取りの内容別にグループ分けをするなどの作業を年度内に行いたいと思っています。8月から9月ぐらいまでに一度出していただき、ヒアリングをするときに実際にどういうことを聞いたらいいいのかなどそういうことも含めて提案をさせていただき、皆さんと一緒に進めていければと思っています。いかがでしょうか。

【船木委員】

極端に言えば生涯学習版ジョブナビになってしまうかもしれません。ジョブナビは言い過ぎかも知れないですが参加者を募集するような。

【木村委員長】

何か活動したいと思っている方々がガイドブックを見てここに行ってみようと思ってもらえるようなものだといかと思えます。今年度中に事務局へヒアリングの行き先を伝えていただき、私も都合がつけばできるだけ皆さんとご一緒させていただければと思っております。委員同志で他の委員のヒアリングの同行や場合によっては事務局も同行することもあるのではないかと思います。ヒアリングの際には写真など撮っていただいたり、ICレコーダーで録音していただいたりするともいいかと思えます。まずは実際に行き場所を決めていただき、どんな話を聞くかどんなことを皆さんに知っていただくかということを含めて皆さんに改めて提案をさせていただきたいと思えます。次の社会教育委員の会議ぐらいまでは皆さんで取り組んでみようということでもよろしいでしょうか。難しいと思っている方などご相談に乗りたいと思えますのでよろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

それでは、このことについての事務局と調整の上、今後改めて皆さんにご相談したいと思えますのでよろしく願いします。それでは最後に次第の4. その他について事務局からお願いいたします。

4. その他

【栗谷主査】

特にございません。

【二上委員】

改めて確認しますが、ガイドブックの取り組みは全員参加ということでしょうか。

【木村委員長】

あくまでも自主的なものですので強制するものではありませんが、私は一生懸命活動されてる方にお話を聞くということはすごく楽しい事だと思いますので、是非皆さん参加してください。でも強制するものではございません。

【木村委員長】

提案に対してご協力いただきありがとうございます。それでは本日の会議を終わりたいと思えます。どうもありがとうございました。

議事録は上記のとおりであることを認めます。

平成31年 4月 5日

石狩市社会教育委員の会議 委員長 木村 純